

新年を迎えて



全医協連
会長
小林 照尚
(こばやし てるひさ)

平成21年の初春を迎えるに当たりまして、皆様にご心よりお喜びを申し上げます。

全医協連加盟の皆様には、お元気で良き新年を迎えられた事と拝察いたしております。

昨年1年を振り返って見ますと、政治の混迷が続き、経済は落ち込み、食の安全は脅かされ、医療関係も悪化しており、先行きの不透明さと不安が取りざたされています。皆様もすでにご承知のように、アメリカのサブプライムローン問題が全世界の金融機関および経済に大きな影響を与え、金融危機、株の暴落を惹き起こしました。日本の株式市場もこの影響を大きく受け、とりわけ生命保険会社では含み損が増加し、健全経営を保持する事が困難な状況となり、10月10日、大和生命が経営破綻し、東京地裁に再生手続開始の申し立てを行う事態になりました。

全医協連は、「このとり」と呼ばれる「全医協連年金制度」を設立しており、その運用および管理を大和生命に委託しております。現在1,000名を超える先生・従業員の方々に、「このとり」および大和生命の保険に加入いただ

ており、皆様に多大なご迷惑をおかけしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

また、大和生命の破綻の約一ヶ月前、AIGの経営難が報じられました。全医協連はAIGグループのアリコジャパン、AIGエジソン生命、損保のAIUと商品販売の提携をおこなっています。このリストラ計画によるとAIUは存続、アリコジャパン、AIGエジソン生命は売却先を募る事になっております。

AIGの経営トラブルにつきましても、ご契約の皆様にご心配をおかけしており、深くお詫びを申し上げます。

この1年間の全医協連を振り返ってみますと、大きな取組が2つありました。

一つは、休診共済会の共済事業が、保健業法の改正により存続が困難となり、一昨年11月末に廃業しました。休診共済会は共済事業に代わって、会員の皆様への医療・医業関係の情報提供と、コンサルト事業をホームページを使って実施していく事になっております。また休診共済会の剰余金の使用方法、および公益法人改革にあわ

せて組織そのものの変更も検討しております。

もう一つは、中小企業等協同組合法の改正に伴う、定款の改正ですが、全医協連も各医協地区連合会も無事に終了しております。

新年早々暗い話ばかり続いてしまいました。が、全医協連としましては、少しでも所属員のみなさまにより良いサービスを提供出来るよう努力してゆく所存でおります。

収益事業である購買事業、福祉事業の発展に取組み、購買では前期から書籍斡旋事業を開始しておりますが、かなりの成果を上げることが出来、そのノウハウをもとに第2、第3の事業の開発を目指しております。

福祉事業については、大和生命破綻、AIGグループの再編等、前期以上の困難がありますが、今一度原点に返って検討したいと思っております。

また、会員拡大を積極的に図り、組合活動をさらに強固にしていきます。日本医師会および県医師会が検討している公益法人化について、医協として協力できることがあれば、積極的に取り組み、医協の存在感を大きくしていきたいと考えています。

全医協連のホームページを充実し、HPのない医協の支援を行い、各医協の活動に援助、協力が出来ればと思っています。

本年も全医協連は各加盟医協とともに、メリットある医協、魅力ある医協を目指しますので、組合員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。